サン・プラント工業（こうぎょう） 株式会社

小ロットOK　試作OK　オンリーワン技術　海外対応

代表取締役
下川（しもかわ） 欣一（きんいち）さん

食品を手作りと同様に加工できる装置を製造します

昭和44年に石川県出身の下川克介が食品加工機械の販売会社として創業、大阪府守口市に本社を置く一方、工場を石川県に取得し、食品加工機械の設計から製造、販売、据付までを一貫して行える体制を構築しました。冷凍食品メーカーなどの新製品開発段階から打合せを繰り返し、顧客の要望に応じてさまざまな加工を行える装置を提供しています。加工食品、冷凍食品市場の拡大とともに成長してきました。

■**主な事業内容**
食品加工機械の設計・製造・据付

■**主な取引先**（納入先）
冷凍食品メーカー、総菜・パン・菓子製造業者

住　所／〒570－0011
大阪府守口市金田町3－39－11
TEL／06－6902－2943
FAX／06－6902－2986
創　業／昭和44年　6月
設　立／昭和46年12月
資本金／5,000万円
従業員／80名

http://www.sunmax.jp/

要望に応じて食品加工の省力化装置を開発

事業内容と沿革

「サンマックス」ブランドで全国展開

主に冷凍食品や総菜、水産、畜肉、菓子、パンなど食品加工の省力化装置を設計、製造する。販売、メンテナンスも一貫して行っている。直接営業で顧客の要望を聞きながら各部署が連携して装置を提供する。

食品メーカーの要望に応じてつくる機械の種類は多岐にわたる。コロッケやフライの製造では、生地を成形するフォーミングマシン、衣やパン粉を付ける工程のバターリングマシン、揚げるためのフライヤーなど、それぞれの工程に必要な装置一式をそろえている。粉の補給機やミキサー、油タンクなど周辺機器も提供し、集じん機や廃油回収装置など環境関連機器も充実している。

装置は「サンマックス」ブランドで全国の加工食品メーカーなどに販売、要望に応じた仕様の製品開発で信頼を獲得している。装置製造は北陸工場（石川県白山市）で行っている。北陸工場は品質マネジメントシステム「ISO9001」を取得し、実際に装置のテストを行えるラボも設け、顧客の信頼を獲得している。

❶装置を製造する北陸工場
❷装置部品を加工
❸ラボ室でのテスト
❹装置の使用例（コロッケ）
❺装置を製造

強み

目的達成の手段を提案

食品加工装置は好不況による波が小さいのが特徴。好況時は外食産業が潤い、不況になれば家庭で総菜などの加工食品を食べる“中食”が増える。いずれにおいても調理の手間を省くため加工食品が重宝されるというわけだ。同社は幅広い食品加工装置を揃えており、競合も少ない業界のため、安定した経営を続けてきた。

ただし食品加工装置は、作る食品の種類だけでなく、食品メーカーによって求められる機能は異なる。特に食品メーカーが新製品を開発する時には、新規の加工機能や特別性を求められることも多い。それらの注文に対し、下川欣一社長は「あきらめず実現させる」ことを徹底している。顧客とのコミュニケーションの中で、まず顧客の目的を把握し理解した上で、達成できる手段、手法を提案している。顧客の価値観は十人十色だが、装置メーカーとしての長年の経験を基に困難な要望にも応えることで、好循環を生み出している。

取り組み

顧客の期待に必ず応える

「顧客を裏切ることだけはしない」と下川社長は言い切る。顧客満足を追求する同社は、直接営業を基本とし、顧客との接点を大切にしている。それだけに顧客と顔を合わせる社員には根本となる考え方を厳しく説いている。社員にはプロフェッショナルとして結果を要求し、言い訳は許さない。下川社長が理想の社員像として「相手の価値観を完全に理解した上で必ず期待に応える人」を掲げる。顧客から注文を受けるためのやり取り、注文を受けてからの装置の設計、製造、据付から試運転まですべての工程で、顧客と誠実に向き合うことを求めている。

顧客が作りたい食品を確実に製造できる装置を提供するために、北陸工場内のラボでテストを繰り返し、装置の品質を最大限まで高めている。同時に、顧客が新商品を発売する時期は決まっているため、納期を最優先で守って装置を仕上げなければならない。

今後の展開

内製化率を高め、製品に責任を持つ

今後も顧客のニーズを聞きながら、食品加工装置一筋に歩んでいく姿勢は変わらない。顧客の注文に応じて一品一品仕様の異なる装置を製造するが、カタログに掲載している標準機についてはモデルチェンジを順次実施し、同社からの提案も進めていく。食品加工装置業界の有力企業として、展示会にも毎年出展し、技術力を訴求する。

注文を受けた食品加工装置の製造は基本的に自社で行うが、外注するケースもある。以前は内製と外注の比率が半々という時期もあったが、最近は品質管理を徹底するため内製化率を高めていく方針を進めている。他社が得意とする機種をやむなく外注することもあるが、同社が販売するすべての製品に責任を持つということを明確に打ち出すため、内製を増やすことに取り組む。そのこだわりは細部にまで及び、交換部品も同社製の純正品使用を促し、顧客とのパイプをいっそう強くすることを目指している。